

リレー橋友録 私の橋歴書

〈835〉

昭和62年にオリエンタルコンサルタンツに入社しました。ご指導頂いた横浜国立大学池田尚治教授(現名誉教授)からコンサルタンツはこれからいろいろなことに携われる可能性がある職業と勧められ、決めたことを覚えていています。

入社27年を経ました。構造物の計画や設計に関



わることができました。入社直後は、バブル期の直前でコンサルタンツの設計業務は既に最盛期中、地下構造物や基礎構造の設計や検討業務に多く関わりました。

その中で明石海峡大橋の主塔基礎の工事発注直前の実施設計を担当し、直径80mの鋼殻設置ケー

ソンの安定計算や高さ約300mとなる主塔基部の頂版の設計、FEM解析を先輩社員に必死にのみつき、教えてもらいながら、工事発注にどうか間に合うように設計成果を作成しました。最後は、何百枚に及ぶ

B1版の図面筒を抱えての取り組み、技術開発に大汗をかきながら東海道新幹線に乗り込み、発注者であった本州四国連絡橋公団の工事事務所へ出向き、最後の仕上げを行って提出したことは忘れられません。

悩み、工夫した経験を糧に

(株)オリエンタルコンサルタンツ

関東支店 国土整備事業部門 部門長

万名 克実

橋梁全般に関わるようになったのは、入社7年目の平成5年に財団法人高速道路技術センター(EXTIEC)に出向した時からです。今の新東名・名神高速道路などの高速道路の建設に向けた新技術新工

えて頂いたと思っただけで、勉強になったと思っただけです。さらに学識者や最先端の技術開発を行っていた技術者の声を直接聞く機会をもち、社内業務で得られない刺激を受けました。

その後、会社に戻り、平成7年1月に発生した兵庫県南部地震を契機とした耐震補強設計や耐震設計、免震橋の設計も多くなりました。今も活かしていると感じています。

当初は細部の設計方法まで基準では規定化されていないこともあり、いろいろな文献や知見を調べ、形式、部位毎に計算方法を確認しながら社内若手技術者と試行錯誤して進めたことは、耐震設計の本質を学ぶ機会を

私は、私がEXTIECへ出向し高速道路の橋梁に関するようになった時に直属の上司であり、大変お世話になった中日本高速道路の和田宣史氏にお願いいたします。